

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100151		
法人名	社会福祉法人 寿敬会		
事業所名	グループホーム ハルジオン		
所在地	和歌山市井ノ口302-5 (電話 073-497-8080)		
自己評価作成日	平成29年1月14日	評価結果市町村受理日	平成29年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&jinyosyocd=3090100151-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山市手平2-1-2 和歌山ビッグ愛		
訪問調査日	平成29年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に包まれた静かな環境の中で、地域との交流を活かし、お互いに助け合い、共有して毎日を楽しむ生き活きと生活出来る様に心掛けています。その人らしい生活を過ごせるように連携の病院・訪問看護と情報共有を密に行い、健康管理に努めています。また、グループホームに入居されてもこれまでの生活習慣を大切に過ごして頂きたい思いで、個々の生活リズムを尊重させて頂いております。現在も地域の行事に定期的に参加していますが、今後さらに地域の中のハルジオンとして、参加・関わりを増やし、職員、利用者様共に地域に根差した施設づくりを日々行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営の理念である「楽しく、ゆったり、皆で暮らそう」が、入居者と職員の間で十分に共有され、日常生活に非常に良好な影響を及ぼしている。小学校をはじめ、近隣との関係は極めて良好で、地域にうまく溶け込んでいる印象である。ミーティング等では、すべての職員から、非常に積極的な意見が出されており、風通しの良い職場であることが窺える。介護計画は、ミーティング等で職員間の十分な話し合いのうえチームで作成され、日々のケアに活かされている。入居者への日々の対応では、職員間の良好なチームワークによる工夫がなされ、入居者の日常生活の安定に大きく寄与している。「外に行きたい」、「買い物に行きたい」、「友達に会いたい」、「家に帰りたい」等の入居者個々の希望になるべく沿うよう職員間で意識の共有が図られており、多忙な業務の合間を縫って、様々な工夫がされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をリビングの目につく位置に掲げ意識できるようにしています。理念を共有する事で利用者様との関わりを考え、実践につなげています。	入居者も含め皆で考えた「楽しく、ゆったり、皆で暮らそう」の理念のもと、職員全員が一丸となって、実践に取り組んでいる。理念は、毎日の申し送り時や、月に一度のミーティングの際にも繰り返し確認されている。	この理念を変更することも検討されたが、結局、継続となったとのこと。今後も理念に磨きをかけつつ、新しい時代にふさわしい運営となるよう、期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催しに参加しており、職員は地域の清掃や児童の通学見守り等も行っています。また、地域の小学生とは、ハルジオン内の畑を活用し、さつまいもの苗植え、芋掘りが恒例行事として定着しています。	行事や児童の安全確保のための通学見守り等を通じて、近隣の小学校との良いお付き合いが続いている。他にも、近隣の下水の清掃や、神社の掃除など、地域との良好な関係が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月にハルジオンカフェを開催し地域の方に参加して頂き、認知症について理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとに運営推進会議を開催し、地域包括支援センター、地区の支所長に参加して頂き、取り組み等を報告し、意見交換を行いサービスの向上に活かしています。家族様、近隣の施設等の参加を募っていますが、中々実現できていません。	参加メンバーは、支所長、自治会長、地域包括支援センタースタッフ、同法人内の養護老人ホームスタッフからなっており、活発な議論がなされていることから、強力に運営を推進している様子が伺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同じ敷地内に地域包括支援センターがあり、常に連携を取り合い、助言、指導をして頂いています。	「市町村担当者と日頃から連絡を密に取り・・・」という状況は、当市においては、様々な状況から非常に困難であると言わざるを得ない。そのような状況下で、同敷地内に地域包括支援センターがあることは、非常に大きな強みとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、防止に向けた取り組みを行っています。家族からの要望もあり、玄関の施錠は実施しているが、時間を決め解放したり、見守りが出来る状態であれば解放しています。	身体拘束を行わないための研修や申し送りが、ミーティング時などを中心に実施されている。実際にどのようなことが身体拘束に当たるかの周知は進んでおり、現状において、身体拘束に該当するような事例は皆無である。	特に日中において、玄関を施錠しないことの重要性は共有されており、高く評価できるものである。今後は、「何故施錠することが不適切なのか」について、研修やミーティングを通じて共有されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護の研修、勉強会を実施しています。他の施設での事件を討論、検討し、職員間でストレスを貯めないように話合っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、入居者様のご家族から成年後見制度を申請され本年度より活用されます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には事前訪問し重要事項の説明を実施。又見学、1日体験を行う等、実際のサービスを体験して頂ける機会を設け、その上で契約をしています。解約、改定の際も時間をかけ十分に説明し理解、納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を出しやすくする為、ハルジオン通信での伝達や家族会を開催。電話や面会時の意見等も全体で共有し反映出来るようにミーティングで検討、苦情は運営推進会議でも取り上げ結果をハルジオン通信で報告。	左記の「ハルジオン通信」を送付する際に、「ご縁新聞」という、入居者らの様子を写真等を用いて伝達するペーパーも用意されており、家族とのコミュニケーションの大切なツールとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で職員の意見、提案を聞くようにし、反映できるように管理者会議で検討して会議の内容は職員に報告しています。	月に一度のミーティングにおいて、すべての職員から、積極的な意見が出されており、非常に高く評価されるものである。「こう決めたはずなのに、どうなっているのか」といった発言を通して、風通しの良い職場であることが窺える。	行事を円滑に進めるため、職員で話し合った結果、食事メニューを統一することになった、などのエピソードがある。今後も職員の連携を密にして、様々な行事を入居者本位の立場で進めていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体のボーリング大会を実施する等コミュニケーションの場を設けている。普段の場でも様々な意見を話せるような職場、環境作りをし、資格習得時に勉強会を開催し向上出来るように支援、又昨年より年4回の休暇が増え充実しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア関連の研修のみならず資格習得支援講座を法人全体で行い向上に努めている。外部研修は開催情報を伝え、参加者による伝達講習を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、近隣施設や同業者との交流はありませんが、サービスの質を向上させていく為にも交流を考えています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し面談を重ね、又ホームでの1日体験の機会を設ける事で利用者の今後に対する想いを考慮できるようにしたうえで信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問で家族の不安や要望を把握し、対応、支援して行く方向を検討、又、いつでも話し合いが出来る様に信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に必要性を明確にし、サービス開始初期はリロケーションダメージに注意を払いながら対応しています。インフォーマルサービスも含め多角的なサービス併用にも対応出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に日々の生活を送る」という考えの下、職員の一方的な支援にならないよう、利用者と職員の相互の助け合いができ、理解できる関係を築いていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子や身体状況など面会時や毎月のハルジオン通信で報告を行い、情報の共有に努めています、家族会や行事の参加等を促し関係を密に出来る様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から親交のある方に電話連絡や手紙をだし関係が途切れないようにしています。家族の協力で馴染みの場所に外出できる様に支援しています。	電話連絡や手紙の支援などが、入居者の希望に応じて適切に実践されており、高く評価できるものである。この他に、兄弟への訪問や、馴染みの美容室へ行くことも実施されている。	馴染みの人や場所、物の関係継続には、入居者本人の自宅へ訪問することが重要な情報収集の機会となることもあり、当GHでも一部実践されている。今後もそのことが促進されることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し、その方に合った環境作りに配慮し、全体の中で孤立しないように、支援に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されていても、気軽に来所出来る雰囲気作りをし、必要に応じ家族様に連絡しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を第一に尊重し、家族とも相談した上で可能な限り意向に沿った支援に努めています。	「外に行きたい」、「買い物に行きたい」、「友達に会いたい」、「家に帰りたい」等、入居者個々の希望になるべく沿うように、職員間での意識の共有が図られている。多忙な業務の合間を縫って、様々な工夫がされている。	BPSDの影響が、「一人で行きたい、何故付いてくるのか」などと発言する入居者もおられ、日常の介護の課題となっている。そういった入居者に寄り添い、その思いを十分に汲み取った対応がなされることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣が大きく変わる事のないよう、生活歴を把握し情報を共有し職員が個々の生活の支援を行っています。又現在の状況に合わせた生活の支援も心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様や家族の希望を把握し、利用者様の個々の出来る事を把握、共有しモニタリングを行い、検討しプランやケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と本人と相談し入所時に出来るだけ以前から使用していた家具や品物を用意して頂き、馴染のある雰囲気を作り上げ、部屋のレイアウトも意向に沿いながら家具等を設置しています。	介護計画については、ミーティングなどで十分に職員間で話し合い、まさに「チームで作成」されていることは高く評価できる。作成後も常に、ミーティングや申し送りで、その内容が確認され続けている。	作成された介護計画の記述を確認すると、「施設サービス計画」や「問題行動」と言った表現が確認された。実際の影響は特に考えにくいですが、時代の流れに応じて、随時に見直していくことも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、情報を共有化しミーティングを実施している。その上で計画の見直しや実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署との情報交換を積極的に行い、意見や情報を得て、視野を広げることで、既存の枠組みに捉われず柔軟に対応できるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(清掃、交通指導等)に参加し、施設の方でカフェ等行事を開催し地域の方に参加して頂けるような支援を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、訪問看護にて対応、連携を行い健康管理に努めています。本人、家族の希望でかかりつけの病院での受診も実施しています。	かかりつけ医や訪問看護師との連携は、決められた様式を用いたメモなどを通じて良好に行われており、高く評価されるものである。	GHの管理者やスタッフ自らが、全入居者の現疾患と既往症、服用中の薬剤などの情報をさらに密に認識することが、かかりつけ医や訪問看護師との連携を深めるものと期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報は記録、共有し訪問時に変化等相談し、個々に合った適切な指示、指導を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には医療関係者や家族とも連絡を密に行う事で情報を共有し治療や退院後の支援にあたっている。入院中も面会し状態の把握に努め、関係医療機関とも情報交換は常日頃行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には本人や家族のターミナルに対する意向を確認しています、その上で状態が変化した際は改めて意向を確認し今後の方針を定める、現在ターミナルの方はいませんが、専門職や関係機関との連携により最良の支援を行うようにしています。	入居時に重要事項説明書などを用いて、ターミナル時等の意向の確認が十分になされている。現状ではターミナルケアに相当する事例はないが、そのような状況となった際は、それに取り組むための姿勢も感じられるところである。	ターミナルケア実践にあたっては、「みているのが辛い」、「夜勤が不安」等の意見が聞かれた。事例の少なさをカバーするために、研修等の機会の活用等を通じて、重度化への対応の基礎を充実させることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの緊急マニュアルを作成し、常に職員の目のつく所に設置しています。実際の方法は施設内研修を実施し対応出来る様に、周知徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施。職員と利用者が一緒に避難経路の確認や消火器の場所や取扱などの訓練も行っている、DVD観賞も実施しています。	年に2回の消防訓練においては、DVD鑑賞や消火器の実演、放送設備のチェック、職員の動きなどの確認がなされており、高く評価できる。また、土地柄、水害の想定はしていないとのことである。	地震被害への対応が十分ではないとのことである。高い確率で来る可能性のある南海トラフの影響に備えて、例えば家具の固定や避難場所の確保などから始められることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重出来るようミーティングで接遇などの議論も行い、対応できるよう心がけています。不適切な声かけや対応があれば職員相互で改めるよう注意しています。	入居者への職員の対応において、どうしても感情的になってしまう場面も見られる。そのような時は、別の職員が間に入ったり、場面を変えたりする工夫が見られている。職員間のチームワークの良好な様子が見て取れ、高く評価できる。	現在、入居者の呼称(名前を呼びかける時の言い方)は、すべて姓の使用となっている。今後、新規入居者等でファーストネームのみの使用が必要と感じられた時どのように対応するのか等、入居者の呼称について話し合っていくのも良いと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の内にある思いを打ち明けられるような信頼関係、環境作りを心がけ、その思いを尊重し決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等の計画、予定はあるが、そのときどきで変更し利用者を優先し、柔軟に対応出来る様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を隔月に利用し近隣の美容室も利用している。服装も個々の好みに合った物を購入したり家族に依頼している。入浴後は女性には化粧水等提供し、時には化粧を施すこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立を考えたり、食事形態も人に合わせ工夫し提供しています。調理、準備、片付けは利用者の状態に応じて一緒にしています。	食器においては、入居時に家族へ、「家にあって馴染みのものを持ってきてください」と依頼し、実際に持ち込まれた、箸、湯呑みなどが使用されている。	最近、職員間で、「他の入居者との使いまわしでも良いのでは」との意見も聞かれている。どのような食器を使うかは、個々の生育環境等から大きな影響を受け個性の高いものであることや、現実的なGH運営上の業務負担等も考慮して、ハルジオンらしい選択を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録表に食事量、水分量を記録し個々の状態を把握している。人により食べる量を把握し、バランスの取れた献立を考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科による治療、口腔ケアを施行し、自分で出来る人は自己にて行い、介助が必要な方は口腔内の状態を把握しケアをしています。洗口液にてうがいをし口臭の軽減に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在2名の方がおむつ使用せず、声かけをしています。排泄パターンを把握出来るよう、記録し失敗をなくし、オムツの使用をなくせるよう支援し、声掛けの配慮も行っています。	様々な介護の工夫で、オムツを使用しない排泄ケアが実践されている。トイレの設置数が2か所と少ない影響で、失敗につながることもあるが、適切な声掛け等を通じて、概ね質の高い排泄の支援がなされている。	トイレ内の安全確保のため様々なケアの工夫がされている。例として、トイレの扉を半開しての様子確認の実施がある。プライバシー確保との兼ね合いで、非常に判断の難しいものであるが、今後も職員間で十分に議論の上、適切な排泄の支援となるような工夫に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立を取り入れたり、水分を多く取り、便秘ぎみの方は運動を促し、朝食時は全員にヨーグルトを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて入浴をし、特定の人には衣類の準備、用意を促し、個々にそった支援をしています。入浴剤を入れたり工夫をしています。	入浴を入居者が楽しむことが出来るように、入浴剤の使用や、柚子、菖蒲などの使用が促進されており、入居者にも高評価となっている。	現在入浴自体を拒む入居者は存在せず、安定した入浴のケアが継続されている。これは、質の高い介護が実践されている証と受け止めることが出来るため、今後もこの継続が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせ、日中、活発に運動を促し休息をしたり、夜間の安眠に繋がるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴、既往歴を把握し、薬局からの薬剤情報を共有、把握し理解に努め、又粉碎したり服薬しやすいように工夫し、症状の変化にも気をつけ利用者の状態の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、力に合わせ、掃除、調理、洗濯物を干したり、畳んだりと役割分担を決め支援しています。一人の男性には夏にはノンアルコール、外出が好きな女性には買い物と個人支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントや行事等にも希望があればいつでも外出できよう対応し、又、姉夫婦が他の施設に入所される利用者様がいますが、訪問を希望される時はいつでも訪ねていけるよう家族と協力し対応しています。	(再掲)「外に行きたい」、「買い物に行きたい」、「友達に会いたい」、「家に帰りたい」等、入居者個々の希望になるべく沿うように、職員間での意識の共有が図られている。多忙な業務の合間を縫って、様々な工夫がされている。	外出支援の実践は、希望者のみとなる傾向にあるとのことである。「行きたい人が行ける環境」を今後も充実させると共に、今後は希望しない入居者の外出支援についても、検討するなどの取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解にて金銭管理の出来る方は5000円程度財布に入れ、買い物に出掛けた時は本人に任せ、購入の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡の希望があれば本人が連絡出来るよう対応し、手紙が書ける利用者には、家族とのやり取りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設のフロアは全面ガラスで陽射しが十分に差し込み明るく開放的で、車椅子を利用されても広いスペースが確保されています。テラスには季節の花等を利用者と一緒に植え、季節感をだすよう工夫しています。	リビングでは、必要に応じてTV放映から音楽(CD演奏)へと切り替えられており、入居者の立場に立ったコンテンツの提供であると評価できる。テラスの整備は行き届いており、花の世話等は入居者の楽しみや役割となっており、これも高く評価できるものである。	共用空間の一部が目立たないところに、職員の靴置き場がある。運営の都合上最適な場所とのことであり、やむを得ない面もあるが、やはり共用空間は入居者のために活用されるべきであり、今後の一考に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースをソファとテーブルに分け、利用者が個々に過ごせるよう居場所を設け活用できるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族、本人と相談し、出来るだけ以前から使用している使い慣れた物を用意し、部屋のレイアウトも意向に沿い、家具の配置をしています。	家具等は、入居時に家族へ、「家にあって馴染みのものを持ってきてください」と依頼し、実際に様々なものが持ち込まれて個性に応じて活用されている。職員本位とならないように、例えば少々散らかりでも片付けたりしないよう工夫されている。	全ての居室を毎日掃除しているとのこと。清潔保持は非常に重要であるが、一方で、掃除に要する職員の業務負担を軽減することで、出来るケアもあるとすれば、そのような志向性の議論にも期待したいところである。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋、トイレ、浴室などには案内を設置し、移動時の安全に配慮し動線にそって手すりを配置、利用者1人ひとりに時間をかけ見守りをし自己にて自立した生活が送れるようにしています		